

平成19年
8月30日

病害虫発生予報 9月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

< 目次 >

・今月の予報

【注意すべき病害虫】

ダイズ：紫斑病，カメムシ類	1
サツマイモ：ナカジロシタバ	1
クリ：モモノゴマダラノメイガ	2
秋冬ネギ：黒斑病，ネギアザミウマ	2
抑制トマト：タバココナジラミ類	3
抑制キュウリ：オンシツコナジラミ	3
アブラナ科野菜共通：ハイマダラノメイガ	4
共通害虫：ハスモンヨトウ，オオタバコガ	4

【その他の病害虫】	5
ダイズ，ナシ，ブドウ，カキ，クリ，果樹共通，秋冬ネギ，夏秋ナス，アブラナ科野菜共通，抑制ピーマン，抑制トマト，抑制キュウリ	

・病害虫ミニ情報

ハスモンヨトウの薬剤感受性について	7
-------------------	---

・今月の気象予報	8
----------	---

・テレホンサービス	8
-----------	---

029(226)5321, 6131

本文に記載された農薬の登録内容は，平成19年8月22日現在のものです。

農薬登録速報については，農林水産省ホームページ「農薬コーナー」
<http://www.maff.go.jp/nouyaku/> 内の登録速報を参照してください。

詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

・ 今月の予報

【注意すべき病害虫】

ダイズ

1. 紫斑病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	平年並	県下全域

[予報の根拠]

気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年並と予想されている。

[防除上注意すべき事項]

開花期以降から成熟期までに連続した降雨があると発生が多くなるので注意する。
防除適期は、開花20日後である。連続した降雨が続く場合は、開花30日後に追加防除を行う。なお、県内では、チオファネートメチル剤（トップジンM）に対する耐性菌が出現しているため、防除の際はチオファネートメチル剤以外の薬剤を使用する。また、新たな薬剤耐性菌の出現を回避するため、2回目の防除を行う際は系統の異なる薬剤を散布する。薬剤散布の際は、莢まで薬液がかかるように丁寧に散布する。
明きよを点検し、排水対策に努める。

（平成18年度普及に移す成果 参照）

2. カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	平年並	県下全域

[予報の根拠]

8月下旬現在、寄生虫数、発生地点率とも平年並である。

[防除上注意すべき事項]

防除適期は、莢伸長期から子実肥大中期頃であるが、莢が黄熟する頃まで加害するため、発生が多い圃場では、収穫前日数に注意し防除を行う。
成虫だけでなく幼虫も加害するため、幼虫の発生状況にも注意する。
薬剤散布の際は、莢まで薬液がかかるように丁寧に散布する。特に、圃場の周縁部はカメムシ類の生息密度が高い傾向にあるため、周縁部への散布は丁寧に行う。

サツマイモ

1. ナカジロシタバ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや遅い	やや多い~多い	県下全域

(サツマイモ ナカジロシタバ続き)

[予報の根拠]

8 月下旬現在，被害葉率は平年よりやや高く，発生地点率は平年より高い。
気象予報によると，向こう 1 か月の気温は平年より高いと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

防除効果が高い幼虫発生初期（つる先や上位葉に指先ほどの穴が開いた被害痕が点々と認められる時期）の防除に努める。
薬剤散布の際は，幼虫が生息する葉裏までかかるよう丁寧に行う。

ク リ

1 . モモノゴマダラノメイガ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	多い	県下全域

[予報の根拠]

8 月下旬現在，被害果率及び発生地点率は平年より高い。
予察灯（笠間市，かすみがうら市）への誘殺数は，平年よりやや多い。
夏季が高温で推移しているため，第 3 回成虫の発生が多くなると予想され，次世代幼虫による被害が懸念される。

[防除上注意すべき事項]

被害が見られる中晩生品種の園では，9 月上～中旬に，収穫前日数等の使用基準に十分注意して防除を行う。
薬剤散布は，薬液が毬果に十分かかるように丁寧に行う。

秋冬ネギ

1 . 黒斑病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	多い	県北地域
	平年並	県南地域

[予報の根拠]

8 月下旬現在，県北地域では発病度，発生地点率ともに平年より高いが，県南地域では平年並である。

[防除上注意すべき事項]

発病初期の防除に重点をおき，その後の発病状況に応じて薬剤散布を行う。
薬剤散布は展着剤を加用し丁寧に行う。また，薬剤を散布する際は，収穫前日数に十分注意する。

2. ネギアザミウマ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	やや多い~多い	県下全域

[予報の根拠]

8月下旬現在、被害度は平年並からやや高く、一部で発生程度の高い圃場がみられる。
気象予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

高温乾燥条件が続くと増殖が盛んになるため、発生状況に応じて薬剤防除を行う。
雑草はネギアザミウマの発生源となるため、圃場周辺の除草を徹底する。

アブラナ科野菜共通

1. ハイマダラノメイガ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	平年並~やや多い	県下全域

[予報の根拠]

8月下旬現在、定植後のアブラナ科野菜で幼虫の寄生及び被害を確認している。
気象予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

本虫は、アブラナ科野菜の育苗期や本圃の初期に、幼虫が生長点付近を加害する。幼苗期に加害されると芯止まりになるので、早期発見、早期防除に努める。
苗床は、防虫ネット等で覆い、成虫の侵入を防ぐ。

抑制トマト

1. タバココナジラミ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

8月下旬現在、寄生葉率、発生地点率とも平年並からやや高い。
気象予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想され、ハウス内は発生を助長する温度条件になる。

[防除上注意すべき事項]

発生が多くなると防除が困難となるため、初期防除を中心に防除する。また本種はトマト黄化葉巻病を媒介するため、防除を徹底する。

(抑制トマト タバココナジラミ類)

設置が可能な場合は、ハウスの開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置し、タバココナジラミ類のハウス内への侵入を防止する。

タバココナジラミ類は葉裏に寄生するため、薬液は下方から吹き上げるように散布する等、葉裏にも十分かかるよう丁寧に行う。

雑草はタバココナジラミ類の生息場所となるため、ハウス内外の除草を徹底する。

抑制キュウリ

1. オンシツコナジラミ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	多い	県下全域

[予報の根拠]

8月下旬現在、寄生葉率、発生地点率とも平年より高い。

気象予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想され、ハウス内は発生を助長する温度条件となる。

[防除上注意すべき事項]

発生が多くなると防除が困難となるため、初期防除を中心に防除する。

コナジラミ類は葉裏に寄生するため、薬液は下方から吹き上げるように散布する等、葉裏にも十分かかるよう丁寧に行う。

雑草はコナジラミ類の生息場所となるため、ハウス内外の除草を徹底する。

共通害虫

1. ハスモンヨトウ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
早い	多い	県下全域

[予報の根拠]

8月下旬現在、フェロモントラップへの誘殺数は平年より多い。

8月下旬現在、ダイズ及びナスでやや多い発生である。

気象予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

レタスやハクサイでは、結球への食害を防ぐため、結球前に防除を徹底する。

ダイズでは白変葉の発生が防除の目安となる。

圃場をよく観察し、幼虫の早期発見に努める。齢期が進むに従って薬剤の効果は低くなるため、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。

薬剤散布は、葉裏や株元にも薬液がかかるように丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるために、同一系統の薬剤は連用しない。

施設栽培では、開口部に防虫ネットを設置する。

2. オオタバコガ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

8月下旬現在，フェロモントラップへの誘殺数は平年並である。

8月下旬現在，ナスで幼虫の発生を確認している。

気象予報によると，向こう1か月の気温は高いと予想され発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

レタスやハクサイでは，結球への食害を防ぐため，結球前に防除を徹底する。

圃場をよく観察し，幼虫の早期発見に努める。齢期が進むにしたがって薬剤の効果は低くなるため，若齢幼虫のうちに防除を徹底する。

薬剤散布は，葉裏や株元にも薬液がかかるように丁寧に行う。また，薬剤抵抗性の発達を抑えるために，同一系統の薬剤は連用しない。

施設栽培では，開口部に防虫ネットを設置する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
ダイズ	べと病	発生量：少ない	8月下旬現在，納豆小粒で発生が見られるが，平年より少ない発生である。
ナシ	黒星病	発生量：多い	8月下旬現在，発病果率は平年より高い。発病の多かった園では，収穫後の防除を徹底する。 本年は徒長枝の生育が旺盛であるため，防除の際は薬液がよくかかるよう特に注意し，丁寧に散布する。
	シンクイムシ類	発生量：やや多い ～多い	8月下旬現在，被害果率は平年よりやや高い。新高等，晩生品種への被害を防ぐため，被害果は放置せず，土中深く埋めるなど速やかに処分する。
	ナシチビガ	発生量：平年並	8月下旬現在，発生を認めず平年並である。
ブドウ (露地巨峰)	褐斑病	発生量：多い	8月下旬現在，発病葉率は平年より高い。発病の多かった園では，収穫後の防除を徹底する。
	べと病	発生量：平年並	8月下旬現在，平年並の発生である。発病の多かった園では，収穫後の防除を徹底する。
	晩腐病	発生量：平年並	8月下旬現在，発生を認めず平年並である。
カキ	炭そ病	発生量：平年並	8月下旬現在，発生を認めず平年並である。

クリ	炭そ病 (実炭そ病)	発生量：平年並	8月下旬現在，発生を認めず平年並である。
果樹共通	カメムシ類	発生量：少ない	8月下旬現在，チャバネアオカメムシの予察灯(かすみがうら市)への誘殺数は，平年より少ない。カメムシ類が飛来した場合は，収穫前日数に注意したうえで直ちに防除を行う。
秋冬ネギ	ネギコガ	発生量：やや多い	8月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
夏秋ナス	コナジラミ類	発生量：多い	8月下旬現在，平年より多い発生である。
	マメハモグリバエ	発生量：やや多い	8月下旬現在，平年並の発生であるが，向こう1か月の気象予報は発生を助長する条件である。
野菜共通	アブラナ科 コナガ	発生量：平年並	8月下旬現在，八千代町のフェロモントラップへの誘殺数は平年並である。
抑制ピーマン	タバココナジラミ類	発生量：多い	8月下旬現在，幼虫，蛹の平均寄生葉率は過去3年中最も高い。果実に着色異常を引き起こすため，防除を徹底する。
	ヒラズハナアザミウマ	発生量：やや多い	8月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	ハダニ類	発生量：やや多い	8月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
抑制トマト	輪紋病	発生量：やや多い	8月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	ミカンキイロアザミウマ	発生量：やや多い	8月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
抑制キュウリ	タバココナジラミ類	発生量：やや多い	8月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	ミカンキイロアザミウマ	発生量：平年並 ～やや多い	8月下旬現在，平年並からやや多い発生である。

ハスモンヨトウの薬剤感受性について

ハスモンヨトウの幼虫は広食性で、野菜やダイズ、花きなど様々な種類の農作物を加害し、問題となります。また、薬剤の殺虫効果が低下しやすく、すでに多くの薬剤に対して抵抗性の発達した個体が発生しています。そこで、主要な薬剤の殺虫効果を確認するため、葉片浸漬法により、薬剤に対する感受性を平成 18 年 10 月に検定しました。なお、検定には 3 齢幼虫を用いました。

【結果の概要】

表 1 には、供試薬剤および採取地点ごとの補正死虫率を示しました。

- (1) アタブロン乳剤、アフーム乳剤、コテツフロアブル、プレオフロアブルは、全ての地点で 100% となり、高い殺虫効果が認められました。
- (2) ノーモルト乳剤、フローバック DF は、それぞれ 78~100% (平均 96%)、77~100% (92%) となり、高い殺虫効果が認められました。
- (3) マッチ乳剤、マトリックフロアブルは、平均するとそれぞれ 93%、90% と高かったものの、地点によって低いものもあり、ややばらつきが認められました。
- (4) トレボン乳剤、トルネードフロアブル、エルサン乳剤は、平均するとそれぞれ 87%、84%、80% と比較的高かったものの、地点によってばらつきが認められました。
- (5) ラービソフロアブル、オルトラン水和剤は、平均するとそれぞれ 61%、56% と低く、地点によってばらつきも認められました。

以上の結果から、ハスモンヨトウに対しては、アタブロン乳剤、アフーム乳剤、コテツフロアブル、プレオフロアブル、ノーモルト乳剤、及びフローバック DF を組み入れた防除体系が有効であると考えられます。

表 1 各種薬剤に対するハスモンヨトウ 3 齢幼虫の薬剤感受性 (平成 18 年 10 月)

系統名	薬剤名	希釈倍数	補正死虫率 (%)					平均値
			地点	地点	地点	地点	地点	
有機リン系剤	エルサン乳剤	1,000倍	100	74	88	55	84	80
	オルトラン水和剤	1,000倍	80	52	68	49	30	56
合成ピレスロイド剤	トレボン乳剤	1,000倍	100	100	54	79	100	87
カーバメート系剤	ラービソフロアブル	1,000倍	97	68	96	25	21	61
BT 剤	フローバック DF	1,000倍	89	92	100	77	100	92
IGR 剤	アタブロン乳剤	2,000倍	100	100	100	100	100	100
	ノーモルト乳剤	2,000倍	100	100	100	78	100	96
	マッチ乳剤	3,000倍	100	100	100	65	100	93
	マトリックフロアブル	2,000倍	100	84	100	94	71	90
その他	アフーム乳剤	1,000倍	100	100	100	100	100	100
		2,000倍	100	100	100	100	100	100
	コテツフロアブル	2,000倍	100	100	100	100	100	100
	プレオフロアブル	1,000倍	100	100	100	100	100	100
	トルネードフロアブル	2,000倍	100	66	76	79	100	84

1) 数値は、処理後 4 日 (IGR 剤, BT 剤は 7 日) の補正死虫率である。

2) 補正死虫率 (%) = { (対照区生存虫数 - 処理区生存虫数) / 対照区生存虫数 } × 100

3) 苦悶虫は死虫とした。

供試薬剤は、一部の作物でハスモンヨトウに平成 19 年 8 月 22 日現在登録があるものです。

作物登録の有無及び使用方法は作物によって異なりますので、薬剤防除を行う際は必ず登録内容を確認してください。

【防除上の注意点】

- (1) ハスモンヨトウの幼虫は、齢期が進むにしたがって薬剤に対する感受性が低下する傾向があるため、若齢幼虫のうちに防除を行ってください。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、同一系統の薬剤を連用せず、ローテーション散布を行ってください。
- (2) ハスモンヨトウの薬剤感受性は圃場によって異なるため、薬剤散布後には効果の確認を行い、効果が劣る場合は、その後の防除では系統の異なる薬剤を選択してください。

「ハスモンヨトウの薬剤感受性について」の表1を活用する場合は、使用する薬剤の適用内容（作物名、希釈倍数、使用時期、使用回数等）をよく確認してから購入、使用して下さい。

・ 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 8月25日から9月24日)

気象庁(8月24日 発表)

< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	20	30	50
降水量	関東甲信全域	30	40	30
日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

天気は数日の周期で変わりますが、一時ぐずつく時期がある見込みです。

< 1週目の予報 > 8月25日(土曜日)から8月31日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

< 2週目の予報 > 9月1日(土曜日)から9月7日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに40%

< 3週目から4週目の予報 > 9月8日(土曜日)から9月21日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに40%

・ テレホンサービス

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために、病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号：029(226)5321, 6131

9月上旬 果樹病害虫の収穫後防除について

9月下旬 施設野菜および露地野菜病害虫の発生現況と防除対策について

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。

お知らせ

平成20年度茨城県立農業大学校学生募集

募集人員等

	学 科 名	募集人員	受験資格	修業年限	専攻コース
学 科	農 学 科	20名	高校等を卒業した者及び平成20年3月に卒業又は修了見込みの者	2年	水田, 畑作
	畜産学科	10		2年	酪農, 養豚
	経営情報学科	10		2年	
	果樹園芸学科	10		2年	
	野菜園芸学科	20		2年	
研 究 科	花き園芸学科	10	2年		
	研 究 科	10	農業系短大卒以上	2年	作物・園芸・畜産

願書受付・入学試験

試験区分	願 書 受 付 期 間	試 験 日	選抜方法
推薦入試 (学科)	平成19年10月2日(火)~10月17日(水)	平成19年10月26日(金)	小論文 口述試験 (個別面接)
一 般 入 試 (学 科)	前期 平成19年12月18日(火)~平成20年1月17日(木)	平成20年1月31日(木)	筆記試験 口述試験 (個別面接)
	後期 平成20年2月7日(木)~平成20年2月26日(火)	平成20年3月6日(木)	
研 究 科 一般入試	平成19年10月2日(火)~10月17日(水)	平成19年10月26日(金)	筆記試験 口述試験 (個別面接)

問い合わせ先 〒311-3116 東茨城郡茨城町長岡 4070-186

茨城県立農業大学校 入試事務局 TEL029-292-0010